

#### 4 成果と改善の方向

「個を生かす学年・学級経営」に関する理論研究と県下小・中・高校教師の「個の重視」にかかわる意識等の実態調査を実施した。その結果、「個を生かす必要性」をほとんどの教師は認めているが「時間的余裕がない」、「何をどのようにすればよいか」の具体的方法がはっきりとつかめていないなどが分かった。すなわち、「一人一人を大切にしていかなければならない」を基底に、今後「個を生かす学年・学級経営」を追究していくにあたって、4つの視点のそれぞれに対する研究・実践の必要性、方向性が明らかになった。

##### 視点1にかかわる改善の方向

- 1 教育課程一般編等を、学年・学級経営の立場から吟味し、個の願いや目標を学年・学級の目標設定に反映させる。
- 2 発達段階、学校規模等を考慮して、個の存在を大切にしようとする意識を高める。

##### 視点2にかかわる改善の方向

- 1 教職員間の共通理解を図った上で「個を生かす」ための内容・方法を学年・学級経営等に位置づける。
- 2 教師一人で「個を生かす」ことは困難なことから互いに補い合う学年・学級経営を心がける。
- 3 個の発達段階、学力等の違いをふまえ、小学校、中学校、高校の一貫性を見とおして柔軟な指導および学習が可能となるような、学年・学級経営を進める。

##### 視点3にかかわる改善の方向

- 1 情意的側面の評価の在り方について、全教職員の共通理解を図る。
- 2 児童生徒自身が自己理解を深め、自己の課題を明確にし意欲的に自力解決を図る態度を育てる。

##### 視点4にかかわる改善の方向

- 1 発達段階や個々の実態に応じて、個性豊

かに生きるための基礎・基本を明らかにし、その習得・定着をめざす学年・学級経営を推進する。

- 2 「個が生かされる」学習環境としての物的環境、人的環境を整備・活用する。

## II 本年度研究の構想

### 1 研究内容

本年度は、前年度の「成果と改善の方向」を受けて、次の各項について研究を進める。

(1) 4つの視点についてそれぞれの改善の方向を充たす指導・援助の在り方、活動の在り方を明らかにするとともに、指導事例や活動事例を収集・開発する。

(2) 収集・開発した事例を「個を生かす学年・学級経営アイデア集」としてまとめる。

(3) 協力校において「個を生かす学年・学級経営アイデア集」のいくつかの項目について実践し他の視点との関連、有効性・効果、指導上の配慮事項等を明らかにする。

(4) 協力校での実践及びアイデアなどをもとに、「個を生かす学年・学級経営アイデア集」を修正・再編集する。

### 2 研究の見とおし

「個を生かす学年・学級経営」を行うには、これまでとは違った新しい内容・方法のもとに経営を展開していくとの意図をもつものではない。

各教師がこれまでに指導・実践してきた内容を4つの視点から見直し、意識して指導していくことが「個を生かす」につながっていくと考える。

本研究では、個を生かす4つの視点からこれまでの教育活動を見直していく過程において、新たな事例を開発したいとの基本的な願いをもっている。

このような考えのもとに、本研究を進めるにあたって、次のような見とおしを立てた。